

【キャベツ（秋冬収穫）】

①栽培こよみ

月 作型	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
10～11月穫り	△	-----○	—————	■	■	■	■	■	■	■
11～1月穫り		△	-----○	—————	■	■	■	■	■	■

△：播種 ○：定植 ■：収穫 ----：育苗期間 ——：本圃期間

②栽培のあらまし

（1）育苗

〔播種・覆土〕

育苗はパイプハウス等の施設内またはトンネル内で行い、根鉢を形成させるため地面から浮かせて育苗します。トレイは128穴、培土には野菜育苗専用培土を使用します。セルトレイに培土を充填した後、専用の鎮圧器等で培土を十分に鎮圧します。

深さ5mm程度の播種穴を開け、コート種子をセルトレイの中心に1粒ずつ播種します。その際、専用の播種板や播種器を利用すると効率的です。

播種後は、同じ培土かバーミキュライトで均一に覆土し、セルの仕切枠が見えるよう余分な覆土は除去します。覆土後、目の細かい蓮口を付けたホース等によりセルトレイあたり500ml程度、底から水がしみ出してくるまで灌水します。

〔育苗管理〕

倉庫などで催芽した後、育苗床に並べて育苗します。灌水は晴天日で1日あたり2～3回で、セルトレイの下から水がしたたる程度とします。セルトレイの端は乾燥しやすいので、端まで十分に水がかかるように灌水します。なお、曇や雨天日には、徒長苗にならないよう、灌水量、回数を調節します。また、徒長の恐れがあるときは、必要に応じて、子葉展開時から登録のあるわい化剤を処理しても良いです。

培土の種類によって異なりますが、10～15日目頃から液肥を追肥します。併せて、アオムシなどが寄生している場合には殺虫剤による防除を行います。

播種後25日程度、本葉3～4葉で、根鉢が形成されセルトレイから抜けるようになれば定植適期となります。セルトレイの端は根鉢の形成が良いので、必ずセルトレイ中央の株で根鉢が形成されているかを確認します。定植前には育苗期後半に粒剤等の殺虫剤を処理するのに併せて、害虫が寄生している場合には、散布により殺虫剤による防除を行います。定植当日には、育苗床から搬出する前に十分に灌水します。

(2) 圃場準備ならびに基肥

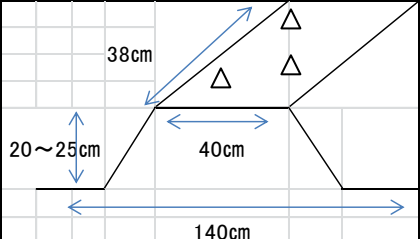
地力が高いとともに排水性に優れ、生育期間中に灌水が可能な圃場を選定します。定植 10 日前までに完熟牛糞たい肥、石灰資材を全面に散布し、できるだけ深く耕耘します。また、基肥は背負式の施肥機等で全層、かつできるだけ均一に散布することが生育の揃いを良くする面でも大切です。なお、畦立てまでに 3 回程度耕起して十分砕土しておくことが望ましいです。

(3) 定植

畦幅は 140cm とし、成畦器等を利用して畦高 20～25cm 程度の高畦とします。条間は 40cm で株間 38cm の 2 条千鳥植えとし、栽植本数は 10a あたり 3,700 株前後とします。

苗はできるだけ直立、根鉢は土壤に埋まるように植えます。全自動移植機を利用することにより 10a あたり 2 時間程度での定植が可能となります。

		(kg/10a)			
	時期	N	P	K	たい肥
基 肥	定植前	22	22	22	2,000
追 肥 1	定植後 14 日 ～20 日後	6	6	6	
追 肥 2	40 日後	6	6	6	
計		34	34	34	2,000



(4) 定植後の管理

〔灌水〕 定植後、速やかに蓮口を付けたホースや灌水チューブを利用して培土と作土が十分になじむよう頭上灌水します。なお、定植時期が高温、乾燥する場合には、こまめに灌水することが重要です。特に、生育を促進するため、定植後活着するまでには土壤の乾き具合にもよりますが、2～3 日程度を目安に灌水します。また、水の便が悪い圃場では、タンクで水を持ち込むなどの管理が必要です。

〔除草〕 定植時の付近の天候にもよりますが畦立てはあまり早く行いません。定植までに日数がある場合には、定植前に登録のある土壤処理剤を必ず散布しておきます。

初期の雑草は、定植直後に土壤処理剤を使用します。その後は追肥を兼ねた中耕で除草を行います。中耕による耕種的な除草を基本としますが、不可能な場合には非選択性の茎葉処理剤の谷間散布などにより対応します。

〔追肥〕 1回目は定植後14日～20日頃に施用します。条間に溝を付け、追肥後中耕を兼ねて覆土します。その後20日～30日を目安に追肥を実施します。1回目の追肥は外葉の大きさに密接な関係があり、球の大きさを決める最大葉を作るので、的確に効かせることが大切です。

2回目の追肥は生育に併せて畦肩または畦間に施用します。追肥後には、管理機等で中耕した後、畦間灌水をとるなどで肥効が向上します。灌水が不能な場合には降雨前に追肥すると肥効が早く現れます。

③病虫害防除

苗床では、アオムシやハスモンヨトウなどが発生するので、寒冷紗でのトンネルも有効な手段です。

本圃ではダイコンシンクイムシ、コナガ、アオムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ等が発生します。特に、定植時期が早い場合には、ダイコンシンクイムシは定植直後から芯を加害します。被害を受けた場合には、セルトレイに処理できる剤と併せて、定植後も芯の被害の有無を常に確認し、必要に応じて7日から10日ごとに防除することが大切です。

また、生育中期には外葉の生育が進むと剤がかかりにくくなり、防除効果が低下するので、害虫の発生初期の防除が必要です。さらに、結球が開始されてからは、ハスモンヨトウ、オオタバコガによる被害に特に注意します。

なお、コナガ、ハスモンヨトウ、オオタバコガについては薬剤抵抗性が生じやすいので、効果的な殺虫剤をローテーションで防除します。

さらに、連作により根こぶ病が発生する場合には、圃場を選定し土壌pHを矯正するとともに殺菌剤で防除します。また、生育が進み、結球が始まるころからは、菌核病の防除も併せて実施する必要があります。

④栽培上の留意点

- ・排水性が良く、地力が高く、かつ灌水が可能な圃場を選定します。
- ・作型にあった品種を選定し、播種期を厳守します。
- ・適期定植を行えるよう、計画的に圃場を準備します。
- ・育苗期後半の粒剤等の処理ならびに定植1週間後の殺虫剤散布は必ず実施。
- ・定植後活着までの灌水は必ず行い、外葉をできるだけ大きくすることで収量を上げます。